



月毎 行發日五廿・日拾

購讀料 廣告料 發行所 編者兼 發行人 印刷所 印刷部

校長時言

現在の縣教育會

森田浪太郎

吉田主事足下

先般御來訪被下彼の催に對し來賓席を飾られたる事を感謝致し候

主事足下

教育會には明瞭なる目的も有之、重要な使命も存じ居り候

主事足下

此の言を以て「齒の浮くお世辭」と謬る勿れ、手も足も出ぬ時期を超越して唯至らざるを憂ふる虞の現状を見て祝福せざるを得ぬ事は事實に候

主事足下

凡て或る目的を以て諸般の事業を行ふに當りて、官廳は存外自由の利かぬ立場に在りて爲政者も常に物足りなさを感じざる機会あることを察し候

主事足下

物を考へたり、感じたり、注意したりする間は熱意も生じ、希望も湧き、進歩の道程を歩むものにて、若し物に介意しないとなれば既に終極に候

主事足下

校長時言に就ては毎號必ず通讀致居り候。縣下先輩諸氏が教育諸問題に關して信念ある其の一部面を發表せられたる事と敬意を表し居り候

時事偶感

四月二十日馬越恭平翁が長逝された、洵に痛惜に堪へない

瀧澤曲南

他人の爲したる跡を見て批判するは誰しもなし得る事にて自ら劃策し計畫し、自ら其の衝に當りて築き上ぐるは豫想以上の困難に逢着して、多くは理想の中ばにも達せぬもの

願ふの長壽者で世人から尊敬された人々で、此二翁の外に瀧澤子爵と淺野總一郎翁があつた、然るに此二三箇年の間に相前後して白玉樓中の人と前長間の友人であつた許り

四月二十七日正午松岡全權を載せた淺間丸が横濱港に着いた、船内よりラジオを通じ

〇世の中 〇方面委員や青年會員や衛生組合員にてもなる馬鹿に威張つてゐる者が多い、それも選挙でつたなら兎に角投票数が少いのでインキキの白票二百票三百票等と勝つてゐるだけだ、アキラケルよ!

〇世の中

〇方面委員や青年會員や衛生組合員にてもなる馬鹿に威張つてゐる者が多い、それも選挙でつたなら兎に角投票数が少いのでインキキの白票二百票三百票等と勝つてゐるだけだ、アキラケルよ!



必讀 二大快著

教育者に與へられた 行政官の公開状

「農村教育の革新」の著者、横尾惣三郎氏は多年官界に在りて、香川、埼玉、愛知の諸縣に、或は勸業課長として、或は内務部長として良吏の官歴を有する人である、論述する所卓風風發、縱論橫議宛然無人の境地を行くが如く、綺語能く人の腸を抉り、混沌たる現時の社會に對して一、大警鐘を亂打するものである、其序の一節に曰く

諸君は屢兒童生徒に對し、教室に於て落第の言葉以て訓戒し、又校庭に於いて器械の如く無心に廻れ右！を號令して居るが、今日の現情より見て、實社會の試験に於てもんどり打つて落第し而して最も廻れ右！の痛切に必要な者は、疑もなく諸君教育者自身であるまいが、自分に忌憚なく云はしむるならば、今日講演の目的は勢頭先づ壇上より、諸君の教育的落第を宣告し、同時に諸君に對し勇敢明白に廻れ右！の號令をかけるにあると考へる

落第とは聊か酷評のやうに思はれるが、さればとて及第して居るのだと反駁し得る自信を持合せないことだけは確であり相である、乍併指導の仕方、號令のかけ方にもよることであるから、兵卒ばかりを責める譯には參るまい、此に至ると吾等は現鳩山文相の氣さく御指揮に隨喜の涙が流れる、右へでも左へでも方向轉換大賛成、但し赤や青のことではない

現在非常時に衝つて國家の求むる最大の要求は、熱慮鬼神を避ける底の果敢なる英斷をなすべし勇氣信念である、教育者として此非常時に教育の非常對策を考へる義務がある、吾々はこれを知らない譯ではないが、萬策が枯渇すれば國家の

選良が亂闘を演じたり、幾度か施政の淨化呼はりしては試みて、あゝも變らず腐肉にたかる青蠅の族出する世の中だ、下積にされて奮動して居る教育者に何の英斷勇氣が出来る筈がない、敢えて絶無とは謂はない

教育の中心生命たる教育者に燃ゆるが如きインスピレーションなく、鐵石相搏つてば火を發する如き熱意なく、多くは此れパンを求むる職業の外に出でず、頭腦は硬化し、心腸は化石し、白日の下、頭を垂れて平歩する態である

あの態をみる、何處に汝等教育者に生氣があるか！めい滅する曉の暗燈同様な人間にビーン、はねる活元の旺盛した人の子の教育が可能なか！仰言、非常時對策の第一はまづ教育者の魂のすげかへからだが、頭腦が硬化してゐたり、心腸が化石してゐるは、木乃伊の標本よりしか使途はなき落第だ、それでも吾々は決して落第しない、軍部が憂へた思想悪化の影響も、上海での爆彈三勇士や、滿洲の荒木大尉の出現や、國內的にもそれ程でなく安心ができた申すのは今時ビスマルクでもあるまいと考へる

教育者に高邁の理想なく、意氣の激濁たるものなく、教育の主眼たる創造に缺け、最後に鐵石相搏つ熱意がない、とあるにはあるが、それが色上げの理想であり、あるにはあるが、それが鼻頭の意氣であり、インテリの創造に過ぎないからとて時たま思ひ出したやうに、遠くでうす煙をあげて何時までも得意がつつてもをらま

であるか、憐むべきは實に今日の教育者の無理想と無氣力と無熱とである

木葉微塵、黃塵驟々、殘骸累々、どこかの市には、一郷を薰化した程の校長があつた、或年のこの市會の態度が冷淡なのに、嗚呼を切つての辭表、驚いたのは議員どももかつての平謝罪で鬼がついたとは、こゝろが所謂高邁なる理想校長のお手本でかあらう

彼の何かを背景にして蠢動し、んぢよそこの有象無象のお膝下にお百度詣りして訣悦を捧げて、急傾斜の自分の椅子の用心棒にしてゐる所謂無氣力な教育者も昔は多かつたが、今時あれはそれこそ珍無類の骨董品だ

氏は現在日本の凡ゆる社會を全く行詰まりした根本原因として、確に勤勞と努力を蔑視して、輕佻浮薄の結果であり、從つて新日本建設の重點は此の勤勞努力を中心とする奮闘的精神の鍛冶修練にあると確信する、教師は勤勞主義の人格者であるべきだと喝破し、それだから教師の待遇問題に波及して、夫れ迄は小學校教員は碌な働きでもないで、俸給許り高いと不平怨嗟の聲が高いが、かうなると成程先生も感心だ、學校の先生の御蔭でこれ文金儲けが出来たと、直に感謝の聲に變はるのである、小學校教員の俸給不拂など大騒ぎをするか、小學校教員に前述した様な眞剣の心掛が有れば、農民と共にこゝろやう非常時には苦しみと云ふ誠意があれば、何事も解決出来るのである

此等知事、學務部長、學務課長の更迭頻繁なる眞に教育の善進歩の障礙である、成案實行は實務當局として嚴守すべき誠言であるとする

以つて外山氏の全豹を窺うに充分である、詢に王陽明の行者らしい氏は、其著述の動機の一つを陳べて

「藩學寺子屋教育と現代教育」の著者は、現山形縣警察部長にして前きの神奈川縣學務部長であつた外山福男氏である、往日同氏の聲貌に近視した筆者は、一層の敬意と興味を懷いて耽讀精讀したのである、氏は單に筆舌の達人である許でなく、實に努力主義の人格者であつた

「藩學寺子屋教育と現代教育」の著者は、現山形縣警察部長にして前きの神奈川縣學務部長であつた外山福男氏である、往日同氏の聲貌に近視した筆者は、一層の敬意と興味を懷いて耽讀精讀したのである、氏は單に筆舌の達人である許でなく、實に努力主義の人格者であつた

議論や、建設の企圖なき破壊の更迭頻繁なる眞に教育の善進歩の障礙である、成案實行は實務當局として嚴守すべき誠言であるとする

以つて外山氏の全豹を窺うに充分である、詢に王陽明の行者らしい氏は、其著述の動機の一つを陳べて

「藩學寺子屋教育と現代教育」の著者は、現山形縣警察部長にして前きの神奈川縣學務部長であつた外山福男氏である、往日同氏の聲貌に近視した筆者は、一層の敬意と興味を懷いて耽讀精讀したのである、氏は單に筆舌の達人である許でなく、實に努力主義の人格者であつた

「藩學寺子屋教育と現代教育」の著者は、現山形縣警察部長にして前きの神奈川縣學務部長であつた外山福男氏である、往日同氏の聲貌に近視した筆者は、一層の敬意と興味を懷いて耽讀精讀したのである、氏は單に筆舌の達人である許でなく、實に努力主義の人格者であつた

根貫ひにさへお世辭だら／＼の實狀で、何處に教權があるか、而かも町村財政の紊亂が町村吏員の不正行爲に出で、折角の國庫交付金も一般財政の赤字埋めにされてしまつた時は、教員的心中は何うであらうかと

不正町村の實情を窺いて、教員の窮況に同情をなす更に今日教員俸給の不拂と言ふ如き悲惨事に遭遇しても、其の割合には教員が諦らめてゐるやうに見ゆるのも、町村財政を知り、金庫の空虚なることを知つてゐるからだと考へるのである、と

滿腔の同情をよせ、更に又人員の整理就職難は重大なる思想變化の原因をなすものとして、小學校教員程大々的に整理されるものは少ない、これが爲め教員の不安は甚しきもので、ある、縣視學などは師範學校卒業時期には丸で赤鬼青鬼とも見えるであらう、赤石を崩すやうに整理異動が行はれるやうでは、何うして教員が安心出来るやう、と

教員の忍從生活に深く左擔し、それに拍車をかけては校長の統制力の充實に説き及んで、無熱とを教へて教育の革新を呼號する所に、吾人として如何に深く理會し、如何に深く同情し、如何に強く味方し、如何に教育の前途のあるべきかを二人の行政官の知見に聞くべきであらう

の氣受厚薄などの點から、校長の統轄に骨が折れる……學生生徒の御機嫌を伺ひて……背景として、校長に一戦を試みる如き教員が絶對にないと誰かが斷言し得るか、私は校長の宣揚には校長の統制力の充實を主張したい

翻つて校長の方面に於ても社會的辭令に巧みであり、殊に監督官廳の庇護に頼つたり新思想と言へば徒に彈壓したり、官振つた尊大さを示したり、するやうなことは勿論よくないと思ふ、萬卒は得易く、一將は得難しの感を深くする

は一言一句、許らざるだけ世の有能無能の校長に對しての痛烈な感嘆となり、頂門の一針ともなり、噴飯失笑を禁じ得ないものであるが氏の論は清冷、透徹秋水の如く、極めて純情に、極めて卒直に、極めて枯淡に叙述した所に頗る妙味がある、而かも徒らに大言壯語せず、自らの忠實な體験記録の中に、詳々説いて儘まざる慈母の如き底光りを感じるは、蓋し孝悌友愛の其の性格より来るか

前者は蒙宿道勤、後者は清徹穩妥、それとも教育者に對して齊しく、その無理想と、無氣力と、無熱とを教へて教育の革新を呼號する所に、吾人として如何に深く理會し、如何に深く同情し、如何に強く味方し、如何に教育の前途のあるべきかを二人の行政官の知見に聞くべきであらう

河邊良平氏急逝

本縣教務課長河邊良平氏は本月十一日胃潰瘍の爲め、靜養中の處、昨十八日突如病勢急變し午後四時逝去せられた、洵に痛哭の極みである、課員を擧げて同家に詰め懸け、葬儀萬端の準備中であるが、二十日午後二時より三時迄横濱市中區久保山齋場にて佛式の告別式を執行さし、管である



金澤文庫

金澤文庫の活動 (續)

金澤文庫長 關 靖

大分話が横 麗氣記の零本と皇子沙汰文だ 道に入つたが 當時劍阿が金 澤文庫の主任 であつたとい

先日會申候書籍等何も干 今無御借候御本若 候は別日記を可進候 猶々急々可有御借候恐

宛名が誤つてゐるけれども 劍阿に宛てたものといふ事 推知される。傳借といふ文字

この日本記は多分日本紀神 代卷の事を指したのではある まいか、劍阿は神佛二部に精

竊以有體者方合心識有心 者心具佛性々々法性遍法 界而不二也自身他身與一

師に傳授した時の識語である 以上の神書には、何れも眞 言秘密の秘傳があつて師資相

尊徳先生の遺法

報徳趣法と表旌 (四)

古屋安定

弘化三丙午年四月十八日 耕作出精奇特人御褒美夫農具被下帳 東沼村境組

見ればよるらしい、此邊のわか らぬ者はみんな落第生だ。此の聲

「坊つちやん」は車屋をつれて 出て来た。出たことは出たが

「いか」銀引上げ事件 「坊つちやん」から一錢五厘を突

山積せる職員録原稿 既に八分通り 依頼したる教育関係職員録は

文庫に残されて居るものは、 日本紀神代卷などがあつた。今

弘化三丙午年四月十八日 耕作出精奇特人御褒美夫農具被下帳 東沼村境組



國語研究講演

横濱市教育會主催 新訂小學國語讀本 編纂趣意について

圖書監修官 大岡保三先生

(二)

而して難しい假名遣や敬語等は、一切使はぬと云ふことになつて居ります。第二部に於ては、難しい假名遣や敬語を使つて居ります。これから本格的に讀本に入るのであります。第三部は更に進んで、一には練習の意味を加へ、長編を讀む力を養はせると云ふことになつて居るのであります。同じお伽噺を出すにしても、第二部の三十四頁に出て居る舌切雀の話は、或る部分を除いて、舌切雀の舌を切る所は抜いてあります。小さい子供に残忍の感ぜを興へると云ふことは、いけませんからわざと抜いたのであります。これを第三部の桃太郎の話の出し方と比べてみれば、兩部門の態度がよくお分りになる事と思ひます。斯くの如く新讀本と、従来の讀本の違ふ點は、新讀本は

(一) 三部に分けての組織立つた編纂方針

(二) 初めから文をもつて始つて居ると云ふこと

(三) 分量が非常に増加したることとあります。

従来の國語讀本は五十四頁でありましたが、今度のは七十八頁で、増加の方はさう大いした相違はありませんが、字數の點では非常に進みます。従来の讀本の一七四〇字に對して今度のは三六八七字でありまして、言葉の數に於ては、從來の三〇二に對して今度のは、四八九と云ふやうに數が増して居るのであります。これはこの調子で、どこまでも行くのかと云ふと、さう云ふ譯ではありません。今度の編纂に於ては、低學年の方でなるべく多くの言葉多くの文字を教へて、高學年の方でなるべく負擔を軽くしたいと云ふのが一つの趣旨になつて居るのであります。三學年以上になりまして、漢字の總數は恐らく現行國語讀本よりも減ることになるだらうと思ひます。而して十二巻を通じての漢字の總數は、從來の國語讀本と略同じ程度で一千三百六十文字を目標として居るのであります。

次に、假名遣の問題であります。これは先刻も申し上げ通り國語は歴史假名遣に據り漢字は字音假名遣を用ひる事と致しました。この難しい假名遣を子供に教へることは、實に困難なことでありまして、大人でも假名遣が正確に出て來る人は餘りないと思ひます。斯道の大家でも正確な假名遣は難しいのであります。昔から二つの違つた體があるものであります。一つは字典體と申しまして、字引に依る體であり、一つは書家等の用ひます書寫體と申して、大體康熙字典に據つたものであります。これは實際に使用する場合は、合非常に書き惜しく又美術的でない云ふやうな點から書家は之を採らざらば、書寫體に據つて文字を書くのであります。この活字體の康熙字典の序文等を見まして、中の字體とは違つた書寫體に據つて書いてあります。之は見る爲の文字と云ふ爲の文字と、自ら字體を異にするべき事を如實に物語つて居るものであります。實際に文字を書く場合は、普通何處で御覽になつても、横濱の横の字にしましても、甘の下に(黃)斯う書くのが字典體であり、普通書く場合は横棒を一本省いて(横)と書きます。これは書寫體であります。讀本は此の程度で書寫體を加味してゐるのであります。序でに申し上げて置きますが、今度出來た高等科用の習字に書寫體を加味してあります。例へば徳川の徳と云ふ字を書きます場合に、徳の字を使つて横棒を一本省いて、これ等は少し行きすぎた感がないでもあり、せぬが最近書道の傾向が著るしく、書寫體を尊重するやうになりましたので、幾分其の方面の意圖も加味した次第であります。

次に、假名遣の問題であります。これは先刻も申し上げ通り國語は歴史假名遣に據り漢字は字音假名遣を用ひる事と致しました。この難しい假名遣を子供に教へることは、實に困難なことでありまして、大人でも假名遣が正確に出て來る人は餘りないと思ひます。斯道の大家でも正確な假名遣は難しいのであります。昔から二つの違つた體があるものであります。一つは字典體と申しまして、字引に依る體であり、一つは書家等の用ひます書寫體と申して、大體康熙字典に據つたものであります。これは實際に使用する場合は、合非常に書き惜しく又美術的でない云ふやうな點から書家は之を採らざらば、書寫體に據つて文字を書くのであります。この活字體の康熙字典の序文等を見まして、中の字體とは違つた書寫體に據つて書いてあります。之は見る爲の文字と云ふ爲の文字と、自ら字體を異にするべき事を如實に物語つて居るものであります。實際に文字を書く場合は、普通何處で御覽になつても、横濱の横の字にしましても、甘の下に(黃)斯う書くのが字典體であり、普通書く場合は横棒を一本省いて(横)と書きます。これは書寫體であります。讀本は此の程度で書寫體を加味してゐるのであります。序でに申し上げて置きますが、今度出來た高等科用の習字に書寫體を加味してあります。例へば徳川の徳と云ふ字を書きます場合に、徳の字を使つて横棒を一本省いて、これ等は少し行きすぎた感がないでもあり、せぬが最近書道の傾向が著るしく、書寫體を尊重するやうになりましたので、幾分其の方面の意圖も加味した次第であります。

最近歐米教育に於ける諸問題

日本大學第四中學校 文學士 山口幸之助

新教育の主張は舊教育の靜

創造的構成能力の陶冶に意を用ひる。

獨逸に於ける新學校運動も、この點で、英國のアボット

ハム(田園教育塾)を作り、新學校の代表的なものとして

はもとつと、美麗にしたいのです

はれてゐる。特にエツテルスブルグ及びビーベルシュタイ

の學校が實驗的に作られたのであるが、後に四校となる、これ

の學校は社會意識の自覺を、奉仕する相互扶助が教へらる

F 特殊教育

所謂特殊教育の概念は甚だ廣く、最廣義に用ひらる。時に弱兒童其他各身體機關の欠損者不具者等の教育をすべて含む。しばしば、この概念内容の複雑なる點より精神的なものと身體的なるものとに區別されることもあるのであるが、しかし兩者共その見方を異にするに止り全く關係なしとは勿論云へない。ドイツに於てもかゝる特殊教育を研究する學問をその重に對照とする點より低能教育學、低格教育學、治療教育學等とよんでゐるが學術語としては必ずしも一定してゐるわけではな

特殊兒童の教育にあつては第一に考ふべきは學級人員の問題である。普通學級と同一ハム組織について見ると、促進級に於ては三〇人より五人位まで補助級に於ては五、六人を程度とし、教師は特別に經驗あるものが必要としてゐる。又教師の指導よく兒童の學習能力も、み普通兒童と異に教育し得ると思はる。時に、しばしば試験的に教育をして見て其の後に決定する。即ち轉級は自由にされてゐるのである。教授法に就いては個人的分團的取扱が行はれ、筋肉作業を重視し、精神活動を刺激するに努める。病弱兒童殊に結核兒の治療及教育を目標とする施設には代表的なものとしてシャロツテンブルグの森間學校が存在する。この學校は創立最も古く一九〇四年八月十六日に開校されてゐる。この學校創立以來ドイツ西歐洲における病弱兒童への注意は急にかまなり、ドイツに於てもこの種の學校は急激の増加を示し今日に及んでゐる。



思想問題と教育 (三)

文學博士 深作安文

資本家が商品を賣つて得た貨幣から、自分の生活費、生産費といふやうなものを取去りまして残り...

次に民主制の採用。これからマルクスの社会改造方法論になるのであります。どういふ意味かと申しますと、今日の産業組織は公然と搾取を可能ならしめる。無...

運動精神を喚び起されたか知れないのです。今日の労働者階級はこれに即つて國を定め、又後で申します日本共産黨の所謂スロ...

ありまして、そこで更に進みまして今日の労働者階級に於て果してどこが勝目があるだらうか、かういふことを考へて見ると、どうも吾々は無産者の方に勝目があるやうに思はれてならない。どういふ譯で無産者の方に勝目があるかと云ふと、今日の資本階級と云ふのは、労働者を...

マルクスといふ貨物の価格を定めるのにどうするかといふと、先づ賃銀を入れる、生産費を入れる、それから儲けるために企業するのですから純益を入れます、これがコップ一個の価格です。そこでマルクスの剰餘価値とは吾々の言ふ純益です。それなら純益と言つたらよさうです。何故剰餘価値といふかと言へば、賃銀と生産費と貨物の価格から控除した餘りで、正式には純益でありまして、金の性質を表現する爲には剰餘価値と言つた方がいゝのであります。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

次にマルクスに随ひますと資本といふものは何れも企業家が企業を繰返して、それから自分の生活費、精神生活の餘裕があれば奢侈費、生産費は無論です。さういふものを差引まして、その残りを積み上げたものが、それが資本である。彼は資本論といふ名著に於て、資本とは剰餘価値を積上げたものだ、と繰返して言つてをります。決して資本家の勤勉節儉の賜物ではないといふのであります。又あるところでは、から言つてゐる、資本とは新らしい貨幣を得るための古い貨幣だとも言つてをります。これも一つの言ひ方です、それに違ひありません。

鐵山、森林の國有、交通及び運輸機關の國有、生産機關の共營、地代利純益の廢止、ストライキの方法の決定、かういふことです。この御注意願ひたいのは前の共産黨宣言綱領とこれ等の決議簡條が非常に似てゐる。即ち綱領が第一インスターの據り所となつたと云ふことは、この集りの中にロシヤの無産階級の爲に解散となりまして、政府主義のバクニンと云ふのが居つたのです。これがなかつたやうな手でありまして、マルクスとバクニンの對立は兩人の間に不和を生ぜしめた。主義が違ひました。マルクスは共産主義、バクニンは無政府主義で兩人の間に紛擾が起りました。一八七二年に第一インスターは解散しました。そこで第二インスターと云ふものが生じます。これは一八八九年にパリで結成された。この時には左程有力な決議簡條と云ふものもなかつたのであります。ところが、一九〇四年に阿姆斯特ダムの開かれた第六回の協議は大層盛んでありまして、代表者は出た國が二十三ヶ國、参加した人は達が千人、日本人としては片山潜が出て居りました。丁度この時は日露戦争中でありまして、決議簡條の第一は戦争反對であります。ところがこの第二インスターは一九一四年、大戦勃發の年になりまして大きな轉向を致しました。と云ふのは、今までは第二インスターの人は國際主義の立場に立つて居りまして眼中に國家になつたのです。ところが大戰となりまして、非常な刺激を彼等に與へたのであります。そこで彼等は、自分の國が負けようものなら吾々無産者も各國の労働者が國際的に團結すると云ふことになりまして、インスターショナルと云ふのは譯しますと國際共産黨と云ふことになるのであります。その主眼は三つありまして、第一インスターショナル、第二インスターショナル、第三インスターショナル、一八六二年にロンドンで萬國博覽會が催されました。その時に英國佛國の労働者が、共産主義に共鳴した労働者が見物に集まつた。そこで誰か云ふとなく誠に、機會だから吾々の實際運動を派の國家主義を克服して、彼等無産階級の無産者よ團結せよと言つたマルクスに吾々は立歸らねばならぬと決心したのであります。この時の中心人物はロシヤ過激派のレーニンです。そこで、この時、この戦争の方向を轉回させ、階級戦争にしなければならぬ、對外戦争に對して對内戦ならしめなければならぬ、と云ふ事でありました。そこでこれをシツカと握りまして機會の到来を待つてゐました。すると一九一七年にロシヤに三月革命と云ふものが起りました。これはロシヤの皇帝が退位してケレンスキーが政權を握つた革命であります。そこで、この革命が政權を握つた。その一は無産者が政權を握つたのですから政治革命です。その二は主なる土地に共産主義を實行したの經濟革命です。これが初めマルクスの意見が實現となつて現れたのであります。レーニンの得意と思ふべきであつたのであります。それから一九一九年にはロシヤ共産黨中央委員會と云ふ名義で世界赤化の準備に着手したのであります。それはどういふ計畫であつたかと云ふと、ポーランド、ハンガリー、オーストリー、ラトヴィヤ、フィンランド、バルカン半島、米國、この國に散在する主義者に向つて、革命的共産主義の實行を國際的に擴張する時期が到来したから、我等は共同戦線に立つて努力せよと云ふ指令を發したのであります。東洋方面ではペルシヤから始めて、アフガニスタン、印度、中華、日本と云ふ順序であつたやうであります。民國について一言し、日本に移りますが、民國では一九二七年に南方支那赤化の計畫でボロディン夫妻が實行に着手しました。後にこれを蔣介石が觀破しました。これは放逐してしまひました。次に北支であります。これは張作霖が生きてゐた時、やはり赤化計畫を觀破して、赤化討滅の叫びを擧げ北京のロシヤ公使館に手入をして證據を得たので、これを放逐しました。それで、今、この後益々共産主義が國に染み込みまして、今日は所謂共産勢力を占めて、蔣介石が手を餘すほどであります。尤も今日の共産主義は利益がないから、即時中止せねばならぬ、と云ふこと、この戦争の方向を轉回さ



婦人家庭欄

第五景

國語教授(督學官來校の日)

女教師二十景

文部省の督學官の、又、日氏(國語科)の、〇高女に臨む日が発表されたのは、既に二週目も前のことであつたが、沈黙して物に騒がず、部下の教師を飽くまで信任してゐる校長は、唯一度、該科の教師をあつめて、アツサリ打合せをしたとき、あつて、すてを、人々の誠意と技術とに委せてあるので、どの教師も、十分に職能を展ばし得るのを喜んでゐるのだ。

知識交換

或る座談會

K 記者

女權問題について

卒業式、入學試験等中等學校としては、最も多忙な三月と、新學年の始めて、萬事が終つたばかりの四月とは休養した高女の座談會は五月の第一土曜日の午後、其の第四回を開いたのである。

M 生

校長を先導として、扉を排して入つて来た。日氏は、主義として、教師が教壇を降つて、生徒と共に參觀者に敬禮するの非としてゐるのを聞いて、あつて、出欠を調べると、直ぐに授業を始めたのである。

作法

用具のあつかひ方

一四 樂器

1 琴

琴のすゝめ方は、先づ爪箱、又は爪袋を懐に入れ、右手で琴の中央を抱へ、左手で龍舌を支へて持ち出す、客の前に置いて、琴の足をソツと両手で押しすゝめ、體を少しく右に向け、爪箱又は爪袋を懐から出し、客の右方に置き、退いて一禮する。

2 三味線

三味線は、先づ撥を絃の間にはさみ、轉軸を左手に持ち、右手で胴を下から抱へて、持ち出で客の前に坐して、一旦、自分の前に立て、さて、轉軸を、右手で向ふから持ち直すと共に、左手を胴にかけてすゝめる。

3 琵琶

琵琶は、歌口を左にして持ち出で客の前向き程のところにて、其の吹きよきやうに取り直してすゝめる。

4 ヴァイオリン

ヴァイオリンは、胴の面を向ふにして垂直にし、左手に、其の直につくし、承諾を得た時は、下座の方に退いて一禮する。

5 鼓

鼓は、兩側の皮に手の觸れぬやうに扱ひ、紐の中程を、右手にて上から、左手は下に添へて持ち出す、客の前向き程の所に立て、向きをかへてすゝめ、

6 笛

笛は、歌口を左にして持ち出で客の前向き程のところにて、其の吹きよきやうに取り直してすゝめる。

7 謠曲臺

觀世流等の謠曲臺は、左右の手で、臺の手掛にかけ、持ち出で、客の前にすゝめる。

8 蓄音器

蓄音器は、客から、少し離れたところに置き下座から、レコードを掛ける。

9 洋琴

ピアノの演奏を請ふには、懇に言をつくし、承諾を得た時は、下座の方に退いて一禮する。

はつ花よりもめづらしきかな、まだ二十九の瑞々しい御姿を、うき世をいとふ暈染にやつさせられ、大納言の典侍の局と阿波の内侍と唯二人を御傍にし、雲井を外のおび居居に、只管、安徳天皇の御苦提と一門の人々の後世を弔ひたまふは、大原の里に、寂光院を中心に、芥生の里、おぼろの清水、呂律川、さては、此の寺の汀の櫻など、およそ「大原御幸」に必要なる背景を話し、さて讀み方の質問を受け、昔の「羽衣」の時と同じく、朗誦(話ふのではない)役々を生徒に定ませた。

Y子の聲と調子は、已に朗誦以上に出で、洛北大原を、こゝに齋すに十分であつた。一同が、無言で感謝してゐる時、  
「山里は物のさびしきことこそあれ、世の憂きよりはなかく、住みよかりける紫の扉、都の方のおとづれば、閑遠に結ばるるませ垣や、憂き節しげき竹柱立居につけて物思へど、人目なきこそ安かりけれ。折々に心なけれど訪ふものは、賤が妻木の斧の音、梢の嵐、猿のこゑ、これらの音ならば、正木のからづら青つたら、くる人様になり果て、草履、淵が若に、しげき思ひの行方とて、雨、原意が扉與へずには置かなかつた。



滿蒙に對する我が國の教育方策を論ず (一)

嘉山新太郎

第一編序 命題の吟味

第一章 命題の吟味

第一節 提案者の意志

第二節 本論文の概観

第三節 本論文の立脚地

萬物は主觀の反映である。客觀的命題は一つなりと雖も其れを含む意味は主觀の見地によつて色合を異にする。...

神奈川縣教育雜誌二百八十五號(五月廿五日發行)を見る

暗雲低迷して征馬胡郎に嘶く滿蒙の天地は、過去幾萬の生靈と巨財とを犠牲にせしことぞ。...

第二節 本論文の立脚地

其の一、滿蒙とは何を指すか。

滿蒙とは滿洲蒙古の意味である。兩者の領域は空漠として正確な實測はないが、ここに滿蒙を意味する。...

第一節 命題の吟味

第一、滿蒙内に於ける教育を我が國の教育立脚地より如何に考ふべきやといふ意味と、...

第二章 本論文の概観

第二章教育の指導精神を上げたのはこの爲めである。

第三章 本論文の立脚地

第三、この指導精神は第三章以下第五章に互る具體案の指導精神になる。...

第四章 滿蒙方策としての滿蒙教育の指導精神

第四章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第五章 滿蒙方策としての教育

第五章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

部は支那に接し、北端は黒龍江、東端は遼東、南端は朝鮮、西端は蒙古、南端は黒龍江、...

りであるが、更に大きな問題が殘されてゐる。「滿蒙に對する」とは滿蒙の如何なる點に對する我が國の教育態度か。...

第一節 本論文の概観

前述第一章は本論文構成に對する心の用意を述べたものである。...

第二章 本論文の立脚地

第二章教育の指導精神を上げたのはこの爲めである。

第三章 本論文の立脚地

第三、この指導精神は第三章以下第五章に互る具體案の指導精神になる。...

第四章 滿蒙方策としての滿蒙教育の指導精神

第四章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第五章 滿蒙方策としての教育

第五章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第六章 本論文の立脚地

第六章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第七章 滿蒙教育の指導精神

第七章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第八章 滿蒙教育の指導精神

第八章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第九章 滿蒙教育の指導精神

第九章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第十章 滿蒙教育の指導精神

第十章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第十一章 滿蒙教育の指導精神

第十一章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第十二章 滿蒙教育の指導精神

第十二章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第十三章 滿蒙教育の指導精神

第十三章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第十四章 滿蒙教育の指導精神

第十四章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第十五章 滿蒙教育の指導精神

第十五章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

第十六章 滿蒙教育の指導精神

第十六章の指導精神は、滿蒙教育の指導精神として、滿蒙教育の指導精神として、...

副會長河邊良平君の急逝を悼みて會員各位に謹告す

河邊良平君は、本月十一日胃潰瘍を病み、自宅にて静養中の處、拾八日病勢遽に急變し、午後四時遂に長逝せられた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として村上氏の後を襲ひ、又縣教育會副會長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

君は昭和六年縣立高女校長より本縣視學官職務課長として遂次教育刷新のため、その抱負を傾けて大いに努められた。

勤勞教育の道場

自給自足の農學校視察記(續) 草野 徳義

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

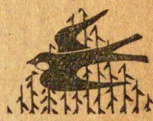
實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...

實習生は全部場内に宿泊し、課程は實習から生活をしてゐる。農場生と同様に午前五時半から午後六時頃まで有畜農業に従事する。...





俳句漫談 (二)

豊岡校 岩田紅一

「有朋自遠方來不亦樂乎」と其の昔孔子様が...

そのちよそこの女性たちに... 五月雨や湯の樋外山に煙りけり

涼風や青田の上の雲の影... 夕風や病氣もなくて田の青

告げて曰く「私が私の全精神を傾... 注してその人のために働得るよう

人間。何と云ふか人間生活である... ことよ。私はそうしなければ安心

人間。何と云ふか人間生活である... ことよ。私はそうしなければ安心

人間。何と云ふか人間生活である... ことよ。私はそうしなければ安心

俳句欄復興

時報となつてからしばらく姿をかくした俳句欄をこゝに復興して、あまねく天下の教育者...

鶴見の緑庵 岩田紅一先生

である同氏は、縣下で俳句を語る程の人は既に御存じの通り、鳴雪翁に師事し小波先生に親ま...

武相俳壇募集

- 一、課題 金魚 通題 五句吐
一、選者 岩田紅一先生
一、発表 六月二十五日發行本紙上
一、賞紙 官製はがき縦書
宛所 横濱市豊岡小学校 岩田紅一

五月雨の雲吹落せ大井川

やがてからりと晴る、五月空に心ひかるは、濃麗に面輪浮きたる日傘哉

雨重き葉の重りや若楓 大 祇 節目にあやまつ足や若楓 燕 村

尾頭に波立て、這ふ毛虫かな 鳴雪 郊外にセルの裾を翻せば田植

早乙女に結んでやらん笠の紐 波

萬花鏡 無名子

私達は生存のための教員生活より、児童を生かすための教員生活...

無名子

忽六版

新知識の源泉

本書は教育學を初め、教育哲學、教育史、各科教授法、訓育、學校教育、家庭教育、教育行政及衛生、管理等其他世界各國の教育實際思潮を全部網羅し教育の總ての問題に對し直ちに解答を與へる。而して哲學、哲學史、論理學、心理學、社會學、美學及び思想問題等も含まれて辭典の新機軸を出したもので教育學家、學校圖書館はもとより一般公私團體の事務上にも必備の寶典である。

(四六判革製堅牢美本全頁一七七〇頁函)

月刊雜誌・定價四十錢・送料一錢
算術新教育
第一回 貳圓五拾錢
第二回 貳圓五拾錢
第三回 貳圓

算術新教育

發行所 教育研究會
東京市麴町富士見町五丁目九番地・電話九段七二七番
振替東京五八一八〇番・大阪六八八八〇番

文學構造と生活學習

四六版上製、定價貳圓、送料十四錢
拙速の悔りを受くるが如き實際的な刊行ではない。著者は十二卷責任執筆に依り讀本の具體的闡明へと精進する。必讀の書である。

教育研究會